

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日：令和 3年 7月25日

更新日：令和 3年10月 7日

| | | | | | |
|--------|----|-----|----------------|---------|-------|
| 政策No. | 2 | 政策名 | ともに生き支えあうまちの形成 | 施策主管課 | 健康増進課 |
| 施策No. | 17 | 施策名 | 地域医療の充実 | 施策主管課長名 | 齊藤 美穂 |
| 施策関連課名 | | | 国保年金課、消防本部管理課 | | |

1 施策の目的と指標

| | | | |
|--------------------------------|---|---|----|
| (1) 対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等 | → | (3) 対象指標(対象の大きさを表す指標) | 単位 |
| 市民 | | A 人口 | 人 |
| (2) 意図(この施策によって対象をどう変えるのか) | → | (4) 成果指標(意図の達成度を表す指標) | 単位 |
| 適切な医療を受けることができる | | ① 安心して医療が受けられると感じている市民の割合 | % |
| | | ② 在宅診療所の登録件数 | 件 |
| | | ③ | |
| | | ④ | |
| 成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由) | ① | 医療体制に対する市民の安心感を示す/安心して医療が受けられると感じていることは、適切な医療が受けられている状態だといえるので、成果指標とした。 | |
| | ② | 市内の在宅診療所の充実度を示す/市内で在宅診療を行う医療機関が充実していれば、適切な医療を受けやすくなるので、成果指標とした。 | |
| | ③ | | |
| | ④ | | |
| 成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか) | ① | 市民アンケート『安心して医療が受けられると感じていますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合 | |
| | ② | 市内在宅診療所の登録件数(関東厚生局に登録された市内在宅診療所の数) | |
| | ③ | | |
| | ④ | | |

2 指標等の推移

| 指標名 | 単位 | 数値区分 | 前期基本計画 | | | | | 後期基本計画 | | | | |
|--|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | H27年度 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| 対象指標 A 人口 | 人 | 見込み値 | | | | | 71,089 | 70,568 | 70,041 | 69,521 | 68,996 | 68,430 |
| | | 実績値 | 72,305 | 72,018 | 71,880 | 71,602 | 71,370 | 71,249 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 成果指標 ① 安心して医療が受けられると感じている市民の割合 | % | 目標値 | - | - | - | - | - | 48.8 | 48.8 | 48.8 | 48.8 | 48.8 |
| | | 実績値 | - | - | - | 48.8 | 52.6 | 54.0 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| ② 在宅診療所の登録件数 | 件 | 目標値 | - | - | - | - | - | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | | 実績値 | - | 1 | 3 | 5 | 5 | 5 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| ③ | | 目標値 | | | | | | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | | | | | | |
| ④ | | 目標値 | | | | | | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | | | | | | |
| 目標設定の考え方・理由(可能性と必然性) | | | | | | | | | | | | |
| ① 救急医療体制の集約化等の導入が始まると、今までのような一次救急の医療体制からは変わるため、体制が変わっても現在の48.8%を維持することを目標値とした。 | | | | | | | | | | | | |
| ② H28年度より関東厚生局に登録されている在宅診療医療機関件数は、毎年微増している。医療体制の集約化や医師の働き方改革が進んでも、このままの件数を維持することを目標値とした。 | | | | | | | | | | | | |
| ③ | | | | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | | | |

3 施策の役割分担

| | |
|--|---|
| ①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと) | ②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師を持ち、治療や薬のことなどは一元的に相談をする。 ・症状が重篤化する前にすみやかに受診する。 ・休日夜間及び救急医療の適切な利用が出来る。 ・関係機関は医療機関と連携を取りながら在宅療養が出来る体制を整えていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療のかかり方など適切な受診の方法について、市民へ周知啓発する。 ・県、医師会と連携しながら救急医療体制を整えていく。 ・救急医療機関の周知をする。 ・関係機関と連携しながら在宅療養のネットワークを充実させる。 |

4 施策の状況変化・住民意見等

| | |
|--|---|
| ①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?) | ②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革が進み、5年後には医師にも働き方改革が適用される。現状のような夜間休日の救急医療体制の継続は困難となる。 ・地域医療構想による病床の機能分化や在院日数の短縮及び高齢化に伴い、今後は在宅介護及び療養のニーズは増加する見込み。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各医療機関や医師会から救急医療体制の改善を求められている。 ・議会でも救急医療体制については、救急医療体制を充実させるよう、また地域医療と併せて考えるよう指摘されている。 |

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

| 区分 | 2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 |
|----------------|-----------|-----------|-----|-----|-----|
| 関連事業本数 | 18 | 19 | | | |
| 関連事業予算額(単位:千円) | 1,458,144 | 1,903,106 | | | |
| 国庫支出金 | 67,204 | 500,967 | | | |
| 県支出金 | 324,591 | 331,543 | | | |
| 地方債 | 0 | 0 | | | |
| その他 | 0 | 0 | | | |
| 一般財源 | 1,066,349 | 1,070,596 | | | |

| | | |
|--|--|---|
| (1) 目標達成度(目標値との比較) | | ※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など) |
| <input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった | | 成果指標①: 休日夜間救急医療を含めた市内医療機関が充実しているため、医療の満足度が上がったと推測している。また、休日夜間救急医療機関のホームページでの案内の成果も一因ではないか考える。 |
| (2) 時系列比較(どのように変化してきたか) | | ※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など) |
| <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した | | 成果指標①: 今後、中巨摩地区での休日夜間救急の拠点化を進めていくが、継続して同様な満足度が得られることを目標にしている。 |
| (3) 他団体比較(近隣他市、県・国との比較など) | | ※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など) |
| <input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である | | 成果指標①: 他県では、70%以上が医療に満足しているというアンケート結果が出されていることと比較すると成果水準としては低いと判断する。 |

7 基本計画期間における施策方針

| |
|---|
| (1) 施策の基本方針 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師を推奨して、地域の中で相談できる体制づくりを充実させる。 ・初期救急医療体制や在宅医療体制を整備・充実していくため、県や関係機関との連携・調整を図る。 |

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R3年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R4年度)の方針

| 基本事業 | 今年度(R3)の取組(事務事業)状況及び今後の課題 | 次年度(R4)の方針 |
|----------------|---|---|
| 1 救急医療体制の確保・整備 | 【取組み】 ・R2年度末には中巨摩での拠点化に向けた合意が、各市町の首長と中巨摩医師会で確認された。 ・県や保健所も担当が変わり、新型コロナウイルス感染症もあるため、話し合いの場が以前のように作れないが、保健所主導で状況確認の場を設けている。 【課題】 ・甲府市医師会との広域化を模索してきたが、現実的には厳しい状況であるため、中巨摩地域の中での拠点化を進めていく方向性が示された。しかし、具体案までには至っていない。 | 県、保健所にも介入してもらいながら、中巨摩地域での救急医療体制を整えていく。 |
| 2 在宅医療体制の継続・維持 | 【取組み】 ・在宅医療推進会議を定期的に開催していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、研修会などの開催が出来ていない状況。 【課題】 ・在宅医療に取り組んでいる医療機関はあるが、推進が十分に出来ていない。 | ・新型コロナウイルス感染症対策の関係で、継続して連携会議や研修会が開催できない状況だが、実施する方法を模索していく。 ・在宅医療の周知についての検討をしていく。 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |